# I LEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

# No.91 目次

繁殖地で見つかったカンムリウミスズメの死体を今後に活かすために ・・・・・・・・・・・・・2-3
オオミズナギドリの保護症例 2 例を振り返って ~その②~・・・・・・・・・・・・・・・4-7
<wrv に新しい仲間が増えました="">・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7</wrv>
施設紹介-新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里・・・・・・・・・・・・・8-9
野生動物リハビリテーター養成講習会(東京会場)募集要項 ・・・・・・・・・・・・・・10
コウノトリの野生復帰事業は新しい段階へ・・・・・・・・・・・・・・・・11
寄付のお礼 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
事務局日誌 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11-12

# 繁殖地で見つかったカンムリウミスズメの死体を今後に活かすために

# (公財) 日本野鳥の会 佐藤智寿

カンムリウミスズメ Synthliboramphus wumizusume はムクドリほどの大きさの、白黒の体色の海鳥です。日本で繁殖する 7 種類のウミスズメ科の中でも、カンムリウミスズメだけが唯一、黒潮や対馬海流の影響がある暖帯海域に生息しています。彼らは一生のうちのほとんどを日本周辺の海上で過ごし、繁殖期のわずかな期間のみ上陸して無人島の崖や急な斜面の岩のすき間、木の根元、地面のくぼ地などにニワトリほどの大きさの卵を  $1\sim2$  個生みます。その推定個体数は  $5,000\sim10,000$  羽で、環境省の第 4 次レッドリストでは、絶滅危惧 II 類に指定されている大変少ない種です。減少した原因は、繁殖地に釣り人が立ち入った時に、一緒に侵入したネズミやカラスなどによる捕食や、重油による海の汚染など海洋環境の悪化によるものと考えられています。

そこで、日本野鳥の会では海の環境保全を目的に、2009 年よりカンムリウミスズメの保護事業に取り組んでいます。2011 年までの調査では伊豆諸島周辺海域での繁殖状況と分布を明らかにし、繁殖地周辺に住む住民に向けてコンサートや講演会などの普及活動を展開しました。2012 年からは東北地方で非繁殖期の調査や、本種の繁殖時期に、繁殖地周辺で個体数や環境に変化がないかを確認しています。確認する方法は主に2種類あり、繁殖の有無や巣の数を記録するための上陸調査と、早朝に繁殖地の島を船で周回し個体数を記録する洋上調査があります。こうした調査を毎年継続して行なうことで、本種や環境に変化があった際には、早期に発見し措置を取ることが出来ます。また、営巣可能な環境を増やすために、繁殖地へ人工巣を設置しています。

2014 年度の取り組みとしては、繁殖期である 4 月に、神津島の属島・紙苗島に上陸して営巣を確認しました。また、同 4 月に三宅島の属島・大野原島の洋上調査で 92 羽を確認、5 月には恩馳島の周辺で洋上調査を 1 時間実施し、計 402 羽の成鳥とヒナを確認しました。また 4 月から 1 ヶ月間、紙苗島でセンサーカメラを設置した結果、21 時から 3 時にかけて営巣地を何度も出入りする本種の姿を撮影し、抱卵交代の周期や活発に行動する時間帯などが明らかになりました。そして繁殖期が終了し、本種が繁殖地からいなくなった頃合いを見計らって、今回の調査を始めました。

恩馳島は神津島の西 4 kmにある無人島であり、隣接する比較的大きな 2 島と複数の岩礁からなっています。島の周囲は急峻な崖であり、玄武岩・流紋岩などが転がる環境です。当会では、2010 年の上陸調査で本種の繁殖の痕跡(死体 1 羽、卵殻 5 個)を確認しており、約 4 年ぶりに繁殖環境や繁殖個体数の変化を確認するため、9 月 2 日に上陸して繁殖状況調査を実施しました。約 4 時間の調査の結果、島の南西部と北西の斜面を中心とした限られた範囲の岩の隙間に、18 羽の死体と 6 個の卵殻を確認し、うち 12 羽の死体と 2 個の卵殻を身体的特徴から本種と識別しました(識別方法は後述)。死体には目立った外傷が見られなかったため、死因が捕食者などの外的要因によるとは考えにくく、また卵殻が割れていた原因が捕食者などによるものかは不明です。これらの結果を通して、現在も本種が島内を繁殖に利用していることが分かりました。また、これまで本種の識別方法は外見的な特徴によるものでしたが、より正確な識別を数値によって行なうために、今回の拾得物を用いて次の測定を行ないました。



カンムリウミスズメ



恩馳島の位置



恩馳島の様子

2014年9月16日(火)、環境省水鳥救護研修センターの研修室をお借りして、本調査で拾得した 死体と卵殻の測定・同定を行ないました。ほぼ全ての死体は翼以外の羽毛が抜け落ちて白骨化してお り、6カ所(①全頭長 ② 嘴峰 長 ③ 嘴先ー鼻孔前 ④胸骨 ⑤自然翼長 ⑥ 跗蹠 長)を測定しました。 卵殻は破損が著しく、長径・短径の測定が困難な状態であることから、清棲(1978)が記述する本種の卵殻の色と照合して判別しました。



死体の中から、嘴がほぼ平行で嘴骨の先端が黒っぽく、嘴、鞘、(嘴骨を包む角質のさや)は全体的に黒みがかっており、胸骨は大きくボート状で腹部を覆い、翼の表面は黒く裏面が白い羽毛、といった特徴を持つ 12 体を本種と判定し、測定しました。また、嘴の測定値は嘴鞘の有無により、区別して測定しました。本種と推定した死体の測定値の平均を表 1 に示します。なお、死体の頭部の羽毛が抜け落ちていたため、露出嘴峰は計測出来ませんでした。

(mm)

測定箇所	①全頭長	②嘴峰長	③嘴先—鼻孔前	<b>④胸骨</b>	⑤自然翼長	⑥跗蹠長
平均値	嘴鞘あり 59.55	嘴鞘あり 28.99	嘴鞘あり 13.12	69.74	118.67	24.99
	嘴鞘なし54.76	嘴鞘なし 26.20	嘴鞘なし 10.12			

[表1 測定値一覧]

12 体の測定値を清棲(1978)による本種の各測定値と比較すると、翼長は「120-130mm と最大 8.21mm の差があり、羽毛の残留具合や腐敗の程度によって数値に大きな差異が見られました。また、跗蹠長は「24-27mm」と最大 0.64mm の差がありました。卵殻は 2 個とも全体に暗褐色の斑紋があり、地色はクリーム色・淡茶色と色調に違いが見られました。これは、清棲(1978)による「黄褐色、クリーム色、赤みを帯びたクリーム色、青みがかったクリーム色、灰色などの地に褐色、暗褐色などの斑紋や、斑点と灰色または青ねずみ色の斑点とが散在する」という本種の卵殻の描写と一致することから、本種と判断しました。また、カンムリウミスズメではないと判断した残り 6 羽の死体は共通して、嘴鞘が太く先が鉤状になっていること、胸骨が極端に小さいこと、自然翼長が 20mm 以上大きいこと等、形態に本種とは明らかに異なる特徴が見られました。また、4 個の卵殻は全て斑紋がなく汚白色であることから、本種ではないと判断しました。なお、これらは各測定値の差が大きく、複数種が混同している可能性があるため同定は出来ませんでした。

死体は清棲(1978)による測定値と比較して、嘴峰長や自然翼長の数値に 10mm 以内の差異が見られました。これは嘴鞘の有無や皮膚、羽根の残留状態に影響されたと考えられます。対して、跗蹠長はほぼ数値内の測定値となったことから、有効な測定箇所であると考えられます。しかし、同島で繁殖するオーストンウミツバメ (25-30mm)・ヒメクロウミツバメ (21-24mm) (清棲 1978) の跗蹠長と非常に近い数値であることから、ウミツバメ類との識別が可能な測定箇所を更に探る必要があることが分かりました。

現段階にて死体を本種と同定するためには、跗蹠の測定値と身体的特徴を合わせて確認する必要がありますが、今回の測定値は、本種の識別材料の一つとして当会の調査で活用していきます。また恩馳島では今後も繁殖状況の把握を継続しつつ、島内の捕食者調査を実施していく予定で、本種が好む繁殖環境の傾向について調査を進め、当会が実施している人工巣の環境整備などに活用していきます。終わりに、測定にあたり場所をお借りした環境省水鳥救護研修センターに、改めて感謝の意を表します。

#### 引用文献

清棲幸保 1978.日本鳥類大図鑑Ⅱ,講談社,東京清棲幸保 1978.日本鳥類大図鑑Ⅲ,講談社,東京

# オオミズナギドリの保護症例2例を振り返って ~その②~

## 埼玉県東松山市・高坂どうぶつ病院 獣医師 小山 正人 / 小山 和美

前号に続きまして、オオミズナギドリや近似種の海鳥の保護管理に必要と考え、自分なりに調べ知り得たこと・こだわった点など、いくつかご紹介させていただきます。

#### ◎管理温度

冬は南国へ渡っていく鳥種だということから、もしかしたら、暑さに強いと想像される方もいらっしゃるかもしれません。ですが羽毛が密に生え、また浮力を得るため多量に空気を含む独特な立体構造をしている部分もあり、熱がこもりやすい事情を抱えています。常に風の吹いている大海原には適応していますが、無風で温度の上がりやすい室内には不向きで、逆に暑さに気を配らなくてはいけません。一方、脚が細く水かきも薄いので寒過ぎによる血行障害や乾燥などにも考慮し、20~25℃を目標に、18~27℃くらいの範囲で管理しました。あまりこの範囲外の温度での管理はお勧めできませんが、ご参考までに、オオミズナギドリの生態研究者の話しでは、中には繁殖地から南下せずに巣穴を利用して越冬する個体もいるそうで、繁殖期に土に掘られた横穴型の巣穴に塒をとるものがいるそうです。その巣内の冬季の温度は、15℃くらいとのことでした。





**写真 5. 6.** 保護時の重症状態を脱したものの、まだ痩せてフラフラなうちから、餌の催促のために収容されていた箱をよじ登り脱走し、隣部屋の人のいるところまでやって来る症例1(雌若鳥)。

**写真7.** 横穴式の巣穴のような仕様にして、出入口に新聞などを 暖簾のように垂らして置いたところ、自分で餌をもらいに出て来 て、満足すると箱の中へ帰って行きました。



#### ◎体重管理…失敗から学んだ食べさせ過ぎに注意した点

大型の海鳥は、他鳥種に比べ一度に多量の餌を強制給餌することができ、簡単に過肥にしてしま うことがあり得ることが考えられます。腎臓や肝臓に致命的ダメージを与えぬよう、充分配慮すべ きでしょう。血液検査で異常値を出す前に、視診や管理下で目安にした点をあげてみます。

まず、正常な排泄は多めの尿酸を伴う顆粒状の糞便で、陸鳥のように大きな一つの塊となった便ではなく、水中に排泄すると、金魚の餌のように 1mm 前後の糞が沢山散らばります。元気なミズナギドリに、押し込めばいくらでも飲み込むからといって過給しますと、消化器に負担をかけ、胆汁酸の過剰分秘によると考えられる濃緑色の下痢便を排泄したり、濃黄色~抹茶色の尿酸を排泄するようになります。そのような時には、充分胃腸を休めるように減食するべきです。余ほどのことが無い限り給餌間隔をあけ、あるいは給餌量を抑えれば正常に戻っていきます。

傷病野生鳥獣救護情報に、オオミズナギドリの具体的な回復目標体重を 570g や 680g とする記載を見たことがありますが、この数値は多過ぎる場合があることに気を付けましょう。成雄であれば良い場合もあるかもしれません。あるいは、保護時体重が上記の目標体重とそう変わりない個体で比較的状態も良く、短期間の内に放鳥見込みのある個体についてもこの数値を目安にして良いかと思います。しかし雌雄の体格差には要注意です。1日の給餌量は、最大でも体重の 30%までとされています。それ以上の給餌を何日も続けるのは、栄養過剰による障害を起こす危険性が出てきます。

一般にオオミズナギドリの雌は雄よりも体格が小さく、体重管理に加減が必要です。例えば、本種の体重範囲が 435~713g・平均 580g というデータがありますが、体格や体重に雌雄差のある本種に、この平均体重をそのまま回復目標体重に当てはめるのは少々乱暴で、雌はこの範囲の前半の数値を参考にすべきでしょう。

失敗例として、先の当院に 474g で保護された個体が、70g 程の卵を産卵し 409g になり、削痩していたため体重を徐々に増やして目標体重に向け、550g 程にしてみた経験を述べさせていただきます。巷で記載されている目標の 580g にもまだ遠い体重ではありましたが、既に太らせ過ぎて消化器障害を起こしてしまいました。よくよく振り返ってみますと、509g を超した頃から呼吸スペース減少によると思われる呼吸速迫や呼吸困難を呈し、歩くのも食べるのもままならなくさせてしまっていたようでした。それまで人馴れして、空腹の度に割餌の催促にやって来ては自ら人の膝上に座り、嘴も簡単に開けさせるほど心を許してくれていた鳥が、人の顔を見ただけで、血相を変えて必死に逃げるようになっていました。当初調子を崩した原因がわからずに、日和見感染の診断や支持療法を施してみたりしても一向に具合が良くならずに途方にくれつつ、もしや食べさせ過ぎかと疑い始め減量させてみましたところ、呼吸器症状も、嘔吐や下痢がちの消化器障害もすっかり落ち着き、440g 前後がこの個体のベスト体重だとわかり、人懐っこさも元に戻って、良く歩きまわれるように回復しました。恥ずかしい限りで、今でも思い出しては申し訳ない気持ちになります。

性別ですが、体格の他に鳴き声によっても雌雄の見当を付けることが可能です。雌は人のいびきのような声をフガフガ出してみたり、ヒキガエルのように濁った低い声で、雄はピーピー高めの声を出します。普段ほとんど鳴きませんが、たまに夜中に鳴き続けることがあります。人馴れした幼鳥では、日中でも人前に出てきて遊びたがり、呼び鳴きをすることがありますが、単発的ですぐ鳴き止みます。

食べさせ過ぎの目安になった行動と言いましょうか、火事場の底力的な激しい拒絶行動においては、「給餌者が怪我を負いかねないほど嘴を頑なに閉ざす」「逆に鉤状に尖った嘴の先端部で手に穴を開けられるくらい強く噛みついてくる」「また嘴の辺縁部は薄い剃刀のような構造のため手を切られる」など危険も伴います。充分お気を付けの上無理強いはしない方が無難でしょう。保護したての警戒心の強い個体などは、保定者の目を狙って突いて来たり、臭いがきつく、こびり付いたら洗ってもなかなか取れない脂分の多い Stomach oil と呼ばれる胃液を吐きかけられたりすることもあるようで、手袋やゴーグル・エプロンなどを装着するようにして、扱いには要注意です。

そして食餌量が足りない時は、尿酸しか出さないか、またはごく少量の濃緑色便を排泄するのが サインになるかと思います。

余談ですが、人馴れしていた当院の患鳥は、腹が減り過ぎると必死に人の正面に立ちはだかり、 よくバスケットボールのディフェンスとオフェンスのような関係を築いていました。





写真 8. 9. 警戒心が強く、余程空腹にならない、限り自分の存在をアピールしたり人前になかなか出て来なかった雌成鳥(症例 2)とは対照的に、雌若鳥(症例 1)は人や物への順応度が高く、照明の有無に関係なく、遊んだり餌を催促するために出てきます。

#### ◎餌

海ではカタクチイワシやイカ、オキアミなどを主体に食べているそうで、新鮮なものの入る時はそれらを与えることもありますが、イワシは新鮮なものを急いで-30℃で凍結してみても、特に脂分の酸化も速く鮮度を保てません。 $IQF(Individual\ Quick\ Freezing)$ のワカサギを主体に、丸ごとの魚を給餌する必要があるそうです。洗わないで凍らせた海魚は、水に漬けないでそのまま解凍することにより塩分添加を不要とし、水溶性のビタミンなどの流出を防げるとの文献もありますが、淡水魚のワカサギは、水にさらしてぬめりを取り除いてから与えています。毎日生魚を買ってくるよりも、IQF魚の方が新鮮です。食塩と総合栄養剤やビタミン剤、クリルオイル等を添加して与え

ます。以前、スピルリナを良かれと思い添加したことがありますが、ほぼ未消化で下痢っぽくなるのでやめました。また、たまたまユーグレナのあった時にそれを試してみたこともありますが、それは胃腸障害がなかったように記憶しています。

余談になりますが、保護した雌幼鳥に、魚の頭を少しくわえさせても飲み込まずに、喉の奥まで魚を入れてもらうために口を開けたまま待っていたり、イカの切り身を突っ込むと喉に張り付くのか、窒息すると言わんばかりにパニックを起こして呼吸速迫になったりと、要領を得ない他力本願型個体を経験しています。雌雄不明でしたが、以前保護した経験のあるハイイロミズナギドリは、すぐに自ら食器内の魚を直接食べるようになりましたが、最近保護したオオミズナギドリの幼鳥は、かなり空腹にさせても決して魚を自分では食べようとせずに、人の膝に上がり座り込み、更に人に喉の奥まで魚を押し込んでもらうまで飲み込まず、やって来る度に、食器と魚と人の指とをトライアングルを描くようにつついたり甘噛みしたりして、食べさせて欲しいと催促してくる個体でした。食器を鳥の顔に近づけ餌を見せても顔をそむけ、「そうじゃない。口に入れてよ。」と言いたげに怪訝な顔をしていました。

ステンレス食器に魚を入れると、光の反射の加減で魚が見えなくなり、鳥が魚を認識できなくなるので、反射しない陶器製の器が良いと救護マニュアルにあったので、食器の種類を変え、魚だけ入れる、水を張った中に魚を入れるなど、何通りかの与え方も試みましたが、自力採食経験の少ないと思われる個体だから自ら食べようとしないのか、未だに謎です。



**写真 10.** 自力採食特訓中

#### ◎嗅球

役立つ情報でないかもしれませんが・・・、ミズナギドリ目(ミズナギドリ科、ウミツバメ科、アホウドリ科など)は嗅球がとても発達しているため臭いにとても敏感で、海に魚油等を流すと風下から集まり、餌となる魚群の臭いを嗅ぎつけると、数キロメートル離れた風下から飛んでくるそうです。スカベンジャーでもあり、海では生餌だけでなく海洋生物の死骸なども食べるようですが、当院では栄養面(特に酸化しやすい魚油成分)や衛生面を考慮して、鮮度の良い魚を主体に与えるようにしています。

#### ◎塩分

オオミズナギドリは管鼻目に属する海鳥で、前頭部内両眼の間に塩類腺を持ち、そこで処理された余分な塩分を鼻腔から鼻水のように垂らしたり、水鉄砲のようにはじき飛ばしたりします。魚を給餌する際は、塩分を添加して塩類腺の委縮を防ぐようにするために、体重 1 kg 当たり塩化ナトリウム 1 H 62.5 mg を添加しています。

患鳥では、塩水が鼻腔から適度に出てこないと、鼻腔が詰まったり、鼻腔周囲のケラチンが鼻腔 を狭めるように伸びて、塞がって来る傾向になっていました。

#### ◎ビタミンB<sub>1</sub>、AD<sub>3</sub>E

冷凍魚のチアミナーゼによるビタミン  $B_1$ 欠乏症を防ぐために、給餌 1 時間前に 20mg/BW1kg の ビタミン  $B_1$ 投与が必要です。週に 1、2 回同量を注射する方法もあります。食餌に添加すると、食事中のチアミナーゼにより  $B_1$ は破壊されるので気を付けてください。しかし、与える魚に添加してそのまま一緒に与えるタイプの魚食用ビタミン剤も見かけます。ビタミン  $AD_3E$  も他の鳥種よりも要求量が高いようです。

#### ◎オメガ3必須脂肪酸

主にカタクチイワシやイカ、オキアミを採食しているので、オメガ3脂肪酸を豊富に摂取しているはずです。しかしこの油は酸化しやすく、魚油のサプリメントで補っていましたが、最近はより

吸収効率の良いリン脂質結合型 DHA から成り、アスタキサンチンも豊富なクリルオイルを主体に与えています。剤形は、オイルのままのものもありますが、包接化した顆粒タイプの方が更に酸化に強いそうです。

#### ◎浮力を得るための特殊な羽毛の構造

ミズナギドリ科の鳥はあまり頻繁には潜水しない、滑空飛行をするアホウドリタイプに分類され、大きな浮力を持ちます。水に沈む部分の羽毛が、体にピタッと沿うような平面的な生え方ではなく、表面から見ると凸型カーブを描いており、多量の空気を含めるようになっていて、身体の半分以上を水面上に出して浮くことができます。この構造を損なうと浮力が低下して身体が沈みがちになり、水に入れられるのを嫌うようになりますので、羽毛を傷めないよう鳥体を扱う必要があります。

#### ◎脚部のケア

文献では、網を張ったところに置く方が、身体への糞や多量の尿酸の付着を防げると書いてある ものもあり、狭い飼養環境ではそのように工夫するのも良いでしょう。当院では駆虫などの感染症 の治療を施した後は、フローリングにほぼ放し飼いです。長椅子の下などを隠れ家、若しくは巣穴 と見立てているようで、そこに安価なお風呂マットを敷いて、その上にペットシーツを敷きます。 夜巣穴から広いところに出てくると、小さめの柔らかいクッションの上に乗り、あたかも海に浮い ているかのようにずっと空腹になるまでそこに居る習慣のある個体もいました。この場合はほぼ寝 床に排泄はせず、寝床の周り、或いは寝床のある長椅子の外回りにわざわざ排泄しに出てきたりし ます。ミズナギドリは高いところへよじ登って飛び降りる習性があり、無風の室内では、飛び降り による脚への衝撃が大き過ぎるので、床より水面の高いプールでの放し飼いは難しいでしょう。で も脚の皮膚の保水性維持や脚腰への体重負荷を考えると、プール生活させた方が良いと思われます。 血流阻害など脚損傷の原因になりそうな角化亢進予防には、ビタミン AD<sub>3</sub>E やオメガ 3 必須脂肪酸 の補給の他に、犬猫用の肉球ぷにぷに(森久保薬品)やデュクソラールスプレー(ZENOAQ)や人 用の保湿剤で対処していますが、脚を洗ってからの塗布(又は噴霧)になるので、洗浄時の格闘が 処置を難航させ、日常的な処置としてはなかなか容易ではありません。ケラチンが厚くなったり血 流を梗塞するような形に変形したときは、本当は良くない方法なのかもしれませんが、爪でその部 分のケラチンを剥がし保湿剤を塗ることで解除できた経験があります。クッション性を持たせたバ ンデージで脚全体をカバーしたことがありましたが、意外にも嫌がらず傷つき防止になり、皮膚も 綺麗になりましたが、この方法も時々要格闘でした。脚の冷える冬などには良いように思います。 米国には、ドライな飼育環境下で用いる Keel Wrap というのもあります。例えが悪いかもしれま せんが洋式便座のような U 字型をしたクッションを、座った鳥の胸骨下に敷くよう固定するもの で、脚の関節保護アイテムです。座っても、水に浮いている時のように関節をあまり屈曲させずに 済むように工夫されています。

さて現在繁殖地では、天然記念物の一つに指定されているにもかかわらず、絶滅の危機に瀕するほどの侵入動物の襲撃を受けているのをご存知でしょうか。生態調査や保護活動をされている方々は、現地でのネコの放し飼いによるノネコの増加と、物資輸送船から侵入するドブネズミの繁殖・激増が、著しい個体数減少を深刻化していると訴えています。オオミズナギドリや、島で繁殖する海鳥達の保全と救護活動が発展することを切に願い、これからも彼らの救護技術向上に努力を重ねてまいる所存にございます。拙い文章を最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。

#### <WRV に新しい仲間が増えました>

8月14日、WRVに新しいスタッフとしてアイガモ2羽がやってきました。普段は神奈川県の野生動物ボランティアセンターで飼育されていますが、「油等汚染事故対策水鳥救護研修」の際には、東京都日野市の環境省水鳥救護研修センターへ出張し、実習で活躍しています。このアイガモは、神奈川県藤沢市の須田牧場の須田直吉さんから購入させて頂きました。須田さんには、以前からアイガモのご購入についてご協力頂いています。今後も、動物スタッフ達の活躍にご期待ください。 (WRV事務局 曽根 友希恵)



# 新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

〒957-0231 新潟県新発田市海老池 TEL(0254)41-4500 FAX(0254)41-4501

E-MAIL ngt035310@pref.niigata.lg.jp



## 自然保護嘱託職員 小 川 龍 司

#### 【新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里について】

愛鳥センターは、新潟県新発田市に位置する県立紫雲寺記念公園内にあります。当センターは、県民が自然に親しみ、自然や野生鳥獣に対する知識を深め、保護思想の普及と啓発を図るため、平成2年5月1日に開館しました。施設内には、展示室の他、展望台や飼育舎、観察池、探鳥路等があり、周辺では約160種の野鳥が記録されています。現在までに約57万人を超える来館者がありますが、近年は年間1万人程度となっており利用者の減少が課題です。現在、職員は6名体制となっています。



愛鳥センター外観



展示室



周囲にはアカマツを主とした林

#### 【主な業務】

・野生鳥獣に関する知識の高揚、保護思想普及啓発を目的とした観察会を開催する

観察会を毎月1回程度の頻度で年間15回ほど開催しています。春は山で、夏・秋は海岸や湖沼で、 冬には湖沼や港で探鳥会を実施し、他にも9月実施のマツムシの声を楽しむ会や、1月実施の足跡ウ オッチングなどの自然観察会も開催しています。

・鳥獣保護をはじめ、自然保護の大切さの意識高揚のための研修会、講演会等を実施する

毎年 11 月に愛鳥講演会を開催し、最近では鳥類標識調査やトキの野生復帰などに関してテーマを設定し、講演会を実施しています。また、6 月と 2 月に新潟県野鳥保護の集いを開催し、初夏の山野や冬の湖での探鳥会および講演会を実施しています。巣箱作り教室やバードカービング入門講座などの体験教室も開催し、子供から大人まで、多くの方に参加いただいています。教育活動として、愛鳥モデル校の指導や愛鳥週間ポスターの募集を行い、野生生物保護実績発表大会を開催しています。

・傷病野生鳥獣を保護治療し、自然界への復帰に努める

各地域の環境センター(保健所)や協力動物病院(約100ヶ所)と連携を図り、全県からの野生傷病鳥獣の受け入れを行っています。県民のみなさまから直接の保護、搬入も多くあります。



観察会の様子



愛鳥講演会の様子



救護棟外観

#### 【救護について】

救護施設は救護棟と飼育舎があり、救護棟は事務室を含めた4部屋の内2部屋が収容室となっています。飼育舎は28ケージあり、ノスリやトビなどを収容する中型鳥獣舎(15)、カルガモやウミネコ、

アオサギなどを収容する大型鳥獣舎(5)、コハクチョウやヒシクイ、小鳥類を収容する小型鳥獣舎(6)、 クマタカやオオワシなどを収容するフライングゲージ(2)があります。各ケージごとに 1 種類ずつ 1 ~2 羽程度収容します。小鳥や水鳥については複数種、複数羽で収容する場合があります。2014年11 月現在では、19種(フクロウ、ハヤブサ、ムナグロ、ダイサギ、クマタカ等)23羽を飼育しています。 また平成5年以降、合計4羽のアルビノのハシボソガラスが保護され、現在1羽を飼育しています。 平成2年度からの収容実績は、累計32,391個体(うち鳥類23,371羽、獣類9,020頭)となってい ます。平成10年が最大の1,502個体、平成25年が最少の497個体でした。近年の年間収容数推移で は、5月~8月の4ヶ月間で50%ほどが収容されることが多く、渡り鳥の衝突事故とヒナの誤認保護、 落下によるものが大半を占めています。新潟県では有害捕獲数の多い鳥獣等(ドバト、キジバト、ス ズメ、ムクドリ、タヌキ等)や外来生物(ハクビシン等)、ヒナについては基本的に保護収容を見送っ ています。しかし前述のようにヒナの保護(特にツバメ)は多く、スズメも保護収容されやすくなっ ています。年によってコハクチョウやオオミズナギドリなども多くなります。コウノトリやブッポウ ソウ、ヤイロチョウなどの希少種、イヌワシやオオワシ、オジロワシ、クマタカといった大型猛禽類 の収容実績もあり、多種多様な鳥類が搬入されてきます。イヌワシやコウノトリなどは人工繁殖のた







飼育舎内



チョウゲンボウ放鳥の様子

さいごになりますが、愛鳥センターは年末年始と休館日(毎週月曜日、休日の場合は翌日)を除い て、いつでもご利用いただけます。新潟にお越しの折にはぜひお立ち寄りください。

#### 【平成25年度傷病鳥獣収容数】

1 1 /9 1 = 0 1 /9 1 /9 1 /9 1 /9 1		
収容総数	85 種 497 個体	
鳥類収容数	80 種 487 羽	
獣類収容数	5 種 10 頭	

獣類内訳 ノウサギ2頭(1頭放獣)

ムササビ1(0)

タヌキ1(0)

アブラコウモリ5(3) キツネ1(0)

放鳥獣総数	50 種 141 個体
鳥類放鳥数	48 種 137 羽
獣類放獣数	2 種 4 頭
放鳥獣率	33.25%
	(死体収容 73 個体を除く)

収容の多い種(放鳥数)

スズメ 60 羽 (13) ツバメ 49 羽 (16) コハクチョウ 37 羽 (4) カワラヒワ 18 羽 (4) ドバト 17 羽(7) キジ 16 羽(3) ウグイス 16 羽(8)

ムクドリ 16 羽 (5)

特記種 ムギマキ (3 例目) カツオドリ (初) ビンズイ (初)

#### 【平成24年度傷病鳥獣収容数】

1 1 /9 = 1 / 20 / 20 / 20 / 20 / 20 / 20 / 20 /			
収容総数	105 種 517 個体		
鳥類収容数	100 種 501 羽		
獣類収容数	5 種 16 頭		

獣類内訳 ノウサギ1頭(1頭放獣)

ハクビシン4(0)

タヌキ4(1)

アブラコウモリ5(3) テン2(1)

放鳥獣総数	65 種 154 個体
鳥類放鳥数	61 種 148 羽
獣類放獣数	4種6頭
放鳥獣率	35%
	(死体収容 77 個体を除く)

収容の多い種(放鳥数)

オオミズナギドリ34羽(13) スズメ32羽(7) ツバメ30羽(12) コハクチョウ29羽(3) ドバト 22 羽 (10) キジバト 20 羽 (5) ウグイス 16 羽 (5) カワラヒワ 15 羽(4)

特記種 ジュウイチ (7 例目) オオアカゲラ (初) サメビタキ (初)

アマツバメ(4 例目) ホオジロガモ(初) ヒシクイ(亜種ヒシクイ)(初)

# 野生動物リハビリテーター養成講習会(東京会場)募集要項

主催:NPO 法人野生動物救護獣医師協会神奈川支部

共催:NPO 法人野生動物救護獣医師協会(WRV) 協力:東京環境工科専門学校

NPO 法人野生動物救護獣医師協会 (WRV) 神奈川支部は、傷ついた野生動物を野生復帰させる活動を通して、自然のしくみを理解し、野生動物の声を代弁する役割の担い手を野生動物リハビリテーターと呼び、野生動物リハビリテーター制度を創設し、神奈川県民を対象に養成、認定事業を実施しています。

ところが、制度創設当初から神奈川県外の市民から受講希望が強く、このたび神奈川県外の市民を対象に同様の講習会を実施することにいたしました。

※2日間の座学のみ開講。実習(実践活動)は実施しません。したがって、野生動物リハビリテーターとして資格認定するものではありません。なお、受講者には修了証を発行します。

- ●受講対象者: 野生動物の保護に関心があり、18歳以上(高校生不可)で講習会に全日程受講可能な方。 ※神奈川県民も受講可ですが、県での認定制度とは連動しておりません。
- ●募集人員:50名(応募多数の場合は抽選) ※WRV 会員は優先
- ●日 時:平成27年2月21日(土)・22日(日) 10:00~16:30(両日とも)
- ●会 場:東京環境工科専門学校 (東京都墨田区江東橋 3-3-7)
- ●内 容:(1)野生動物救護の目的と野生動物リハビリテーターの役割
  - (2) 日本における救護の現状 (関連法規を含む)
  - (3) 野鳥種の特徴と見分け方(生態を含む)
  - (4) 野鳥の解剖と生理(身体の構造と特徴)
  - (5) 野鳥のファーストエイド、ケア、リハビリテーション、リリース
  - (6) 衛生管理と感染予防 (共通感染症を含む)
- ●受講料:6,000 円 他にテキスト代(3,000 円)が必要です。

受講決定者には受講決定通知とともに郵便振込用紙を同封しますのでお振込みください。

- ●特典: NPO 法人野生動物救護獣医師協会 (WRV) 会長名の修了証が授与される ※全日程出席が必須
- ●申込方法:受講希望者は、WRV 神奈川支部のHPより受講申込書をダウンロードしてください(アドレスは下記参照)。または e-mail でタイトルに「リハビリテーター受講申込書希望」、通信欄に郵便番号、住所、氏名を明記の上ご連絡ください。申込書類一式を郵送します。平成 27 年 1 月 10 日(土) (消印有効)までに WRV 神奈川支部へ郵送にて提出してください。申込みが定員を上回った場合には抽選 (WRV 会員優先)とします。受講(抽選)の結果は、平成 27 年 1 月 24 日(土)までに全員に通知します。
  - ●問合・申込先:特定非営利活動法人野生動物救護獣医師協会神奈川支部(WRV神奈川支部) 〒211-0042 川崎市中原区下新城 2-1-28 野生動物ボランティアセンター内

TEL: 044-777-8243 FAX: 044-777-8368

e-mail: kanagawa@wrvj.org http://www.wrv-kanagawa.jp/

# ● コウノトリの野生復帰事業は新しい段階へ ●

兵庫県豊岡市において、2005年(平成17年)に初めてコウノトリの 放鳥が行われて以来、はや9年あまりの時が経過しました。放鳥され た後もずっと無事に過ごしている個体だけでなく、野外での繁殖によって新たに巣立った個体、さらには第3世代も既に誕生し、総個体数 は確実に増えている状況です。また、その生息状況を見てみると、地 元周辺に留まっている個体も多く見られる一方、既に遠方に飛び立っ ていった個体もかなり確認されています。特にコウノトリは、もとも と渡りを行う程飛翔力の優れた種であるため、こうした分散の動きは 頗る自然な状態と言うことができましょう。これまでのデータからも、 日本国内においては、沖縄県や北海道、東北の一部の県等を除く大半



の都府県で飛来が確認されており、中には、鹿児島県の奄美大島に到達した個体もおります。さらに 国外に飛び出し、韓国に渡った個体もおり、その個体は地元に生息しているコウノトリと連れ立って 行動している姿が既に確認されております。

こうした状況から、コウノトリはこれまでのような豊岡市、あるいは兵庫県の鳥というだけでなく、既に日本の鳥になりつつあります。今後は、日本各地のどこに飛来してもおかしくない状況であり、従って、日本全土の規模、あるいは隣国との連携も含めた広い視野で、コウノトリの将来さらには人との共存のあり方について検討すべき段階がやって来たということになります。これまで、コウノトリとはほとんど縁がなかったような方々の目の前に、突然姿を現す可能性も出てまいりましたので、会員の皆様にも、是非コウノトリという種をもっと身近な存在としてとらえ、関心を寄せていただけると有難く存じます。 (WRV 事務局 箕輪 多津男)

# 【 事務局より寄付のお礼 】 <u>寄付ご協力者(敬称略)(平成 26 年 9 月 1 日から平成 26 年 11 月 30 日)</u>

○寄付金(一般)2014.10.4 2014 動物感謝デー in JAPAN(募金箱) 2,506 円

○神奈川支部寄付金

2014.9.2 鈴木亮彦 1,000 円

2014.9.20 神奈川県野生動物リハヒ・リテーター 10,700円

2014.9.23 神奈川県野生動物リハビリテーター 3,500円

2014.10.4 麻生区ふれあい公園(募金箱)

2014.10.16 小宮さやか 1,000円

2014.11.3 青葉区民まつり(募金箱) 850円

2014.11.3 神奈川県野生動物リハビリテーター 2,800円

2014.11.9 森とせせらぎまつり(募金箱) 230円

2014.11.16 秋の動物園まつり(募金箱) 875円

2014.11.16 神奈川県野生動物リハビリテーター 1,400円

2014.11.30 神奈川県野生動物リハビリテーター 3,500円

#### 事務局日誌 2014.9.13~2014.12.16

=== 9月 ===

14:神奈川県野生動物リハビリテーター養成講座(実践活動)[神奈川支部] 対応:馬場、皆川

14:金沢文庫芸術祭(海の公園)[神奈川支部]

対応 : 皆川

16:(公財)日本野鳥の会 カンムリウミスズメ死体・卵殻の測定、同定(水鳥救護研修センター) 対応:箕輪、曽根

16~19:日本野生動物医学会

出席:皆川

55円

20:スマイリングフェア(東高根森林公園パークセンター)[神奈川支部]

対応:皆川

21:日獣大獣医学科・水鳥救護実習(水鳥救護研修センター)

対応:羽山、皆川、箕輪、曽根

23:神奈川ワイルドライフフォーラム(鶴見公会堂)[神奈川支部]

出席:皆川

23:川崎動物愛護フェスティバル (JR川崎駅アゼリア) [神奈川支部]

対応:皆川

25: WRV ニュースレターNo.90 発行

26:麻布大学・第2回交流委員会(麻布大学)

出席:新妻

26: 災害動物医療研究会·幹事会

出席:羽山、皆川

26: 国立科学博物館・打合せ

対応:箕輪

27: 第16回日本臨床獣医学フォーラム2014年次大会(ホテルニューオータニ)

出席:新妻 対応:皆川

27,28:日獣大獣医学科野生動物実習(野生動物ボランティアセンター)[神奈川支部]

出席:新妻

28: 埼玉県 日本小動物獣医師会·獣医事講習会 (川越南文化会館)

山川・州安

29:ミゾゴイ(傷病個体)のガイド (野毛山動物園・ミゾゴイ展示場前) [神奈川支部]

対応:皆川

29:麻布大学・第1回実行委員会(麻布大学) 出席:新妻 === 10月 === 01,15,29: NPO マネジメント講座(かながわ県民サポートセンター)[神奈川支部] 出席: 皆川 04:2014 動物感謝デー in JAPAN (駒沢オリンピック公園) 対応:新妻、小松、箕輪、曽根 04:シンポジウム「オオタカー希少種解除への課題―」(立教大学) 出席:箕輪 04: 麻生区ふれあい公園 (王禅寺ふるさと公園) [神奈川支部] 対応: 皆川 05,11,12:日獣大獣医学科野生動物実習(野生動物ボランティアセンター)[神奈川支部] 対応:皆川 05:かながわボランタリー団体成長支援事業打合せ(野生動物ボランティアセンター)[神奈川支部] 出席:皆川 16: 東京環境工科専門学校生・体験学習 (野生動物ボランティアセンター) [神奈川支部] 対応:皆川 18,19,26: 神奈川県野生動物リハビリテーター養成講座 (実践活動) [神奈川支部] 対応:馬場、皆川 18:金沢まつりいきいきフェスタ (海の公園) [神奈川支部] 対応:皆川 21~22:第1回油等汚染事故対策水鳥救護研修 (水鳥救護研修センター) 対応:中津、新妻、皆川、箕輪、曽根、御厨 21:(公財) 東京都獣医師会 南多摩支部 学術講習会(水鳥救護研修センター) 対応:大窪 25: 丹沢植樹 (丹沢大山) [神奈川支部] 対応:皆川 31: 第22回わいわいサロン(かながわ県民サポートセンター)[神奈川支部] 対応:皆川 === 11月 === 01:東京港野鳥公園・油汚染事故水鳥救護講習会[東京都支部] 対応:新妻、大窪、皆川、箕輪 02~03:麻布大学・大学祭、麻布大学ホームカミングデー(麻布大学) 対応:新妻 02~03: エコ森ワンダーパーク (金沢動物園) 「神奈川支部] 対応: 皆川 03: 青葉区民まつり(青葉区総合庁舎周辺)[神奈川支部] 対応:皆川 03: コウノトリ湿地ネット・講演会(兵庫県豊岡市) 対応:箕輪 04: ソーシャルビジネスフォーラム (かながわ県民サポートセンター) [神奈川支部] 出席:皆川 05,12,19: NPO マネジメント講座(かながわ県民サポートセンター) 「神奈川支部」 出席:皆川 08,25,30:神奈川県野生動物リハビリテーター養成講座(実践活動)[神奈川支部] 対応:馬場、皆川 09: 災害動物医療研究会シンポジウム/獣医生命科学会第1回学術集会(日本獣医生命科学大学) 出席:羽山、箕輪 09: 森とせせらぎまつり (野生動物ボランティアセンター) 「神奈川支部」 対応:馬場、皆川 10: 事業打合せ(日本鳥類保護連盟) 対応:箕輪 16: 秋の動物園まつり (夢見ケ崎動物公園) [神奈川支部] 対応:馬場、皆川 15~16: 第35回動物臨床医学会年次大会(グランキューブ大阪) 出席:新妻 22: (公財) 東京都獣医師会 南多摩支部 学術講習会 (水鳥救護研修センター) 対応:大窪 24:ミゾゴイ(傷病個体)のガイド(野毛山動物園・ミゾゴイ展示場前)[神奈川支部] 対応:皆川 25~26:第2回油等汚染事故対策水鳥救護研修 (水鳥救護研修センター) 対応:中津、新妻、皆川、箕輪、曽根、近江谷 27,12/2:(公財) 日本野鳥の会 カワウの解剖 (水鳥救護研修センター) 対応:曽根 29: 野生動物救護獣医師協会 講習会 [東京都支部] (ホテルローズガーデン新宿) 出席:金成、新妻、皆川、倉林、小森、筧、曽根、箕輪 30:第159回麻布大学麻門会(麻布大学) 出席:新妻 === 12月 === 04: 小池百合子衆議院議員を励ます会(ホテルオークラ) 出席:新妻 05:「ヒナを拾わないで!!キャンペーン」3団体担当者打合せ(日本野鳥の会) 出席:箕輪 06: 災害動物医療研究会シンポジウム (日本獣医生命科学大学) 出席:羽山、皆川 11:平成26年度油汚染事故対策水鳥救護研修 現地研修(小笠原・父島) 対応:皆川、箕輪、曽根 12: 東京都・油汚染対策水鳥救護講習会(小笠原・父島) 対応:皆川、箕輪、曽根 12: 愛鳥懇話会(日比谷松本楼) 出席:新妻 13:藤沢環境フェア (藤沢市民会館) [神奈川支部] 対応:皆川 16:(公財) 東京都獣医師会 南多摩支部 学術講習会(水鳥救護研修センター) 対応:大窪

## 野生動物救護獣医師協会 (ホームページ) http://www.wrvj.org/ (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 91 2014.12.25 発行

発 行:特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局: 〒190-0013 東京都立川市富士見町 1-23-16 富士パークビル 302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人:新妻 勲夫 編集文責:皆川 康雄

\_.\_.\_.